



## 統計から社会の実情を読み取る

### 第174回 職業信頼度の国際比較

本川 裕 | Honkawa Yutaka

アルファ社会科学(株)主席研究員

■東京大学農学部農業経済学科卒。財団法人国民経済研究協会常務理事研究部長を経て、現職。元立教大学兼任講師。農業、地域、産業、開発援助などの調査研究に従事。現在は、「社会実情データ図録」サイト (<http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/>) を主宰するかたわら地域・企業調査等を行う。著書に、『統計データはおもしろい!』(技術評論社、2010年)、『なぜ、男子は突然、草食化したのか：統計データが解き明かす日本の変化』(同上、2019年)、『統計で問い直すはずれ値だらけの日本人』(講談社、2025年)等。PRESIDENT Online にて連載を執筆中。



#### 信頼度が高いのはどこでも医師や科学者、途上国で教師、英米でレストラン給仕

フランスの世界的な調査会社であるイブソス社は、各国でどんな職業の人間が信頼されているかの国際意識調査を実施している<sup>注1</sup>。職業信頼度に関する調査結果はあまり見かけないデータであるが、職業の社会的評価については、今、何らかの職業に就いている社会人にとっても、また、これからどんな職業に就こうかと考えている学生にとっても関心が高い事項だと思われるので、今回、紹介することとした。

ここでは、32カ国、21の職業についてイブソス社が調べた結果を各国における順位別に図1に示した。ここで作成した順位グラフは、筆者のオリジナルであり、イブソス社の報告書には元になるデータが示されているだけだということを申し添えておこう。

凡例に掲げた職業の順番は世界平均の信頼度

(「信用できる」割合)の高い順である。信頼度の高い順に、医師、科学者、教師、レストランの給仕スタッフ、軍人、一般の男性/女性、警察官と続き、逆に、信頼度の低い順に、政治家全般、SNSのインフルエンサー、広告担当幹部、政府の閣僚、経営者、政府職員/公務員と続いている。表1にこれら職業の英語表記を示しておいた。

図1の国の順番は左からIMF(国際通貨基金)の1人当たりGDPによる所得水準の高さで並べた(左は先進国、右は途上国)。

国別の職業別の信頼度については結論的には次のような特色が見てとれる。個別には以下の記述を参照されたい。

- ① 医師は信頼度トップの国がほとんど
- ② 科学者は中進国で信頼度トップ
- ③ 教師は途上国で評判が良い(日本は異例

注1) 設問文は、表1の職業に関し「以下は、様々なタイプの人々のリストです。自国では、それぞれの人は、一般に信用できると思いますか？ または信用できないと思いますか？」(In general, do you think each is trustworthy or untrustworthy in your country?)

リストにあげた様々なタイプの人びとについてあなたの国では一般的に信用できると思いますか？  
5段階評価の「信用できる」(1+2) / 「信用できない」(4+5) の回答率比率のランキング

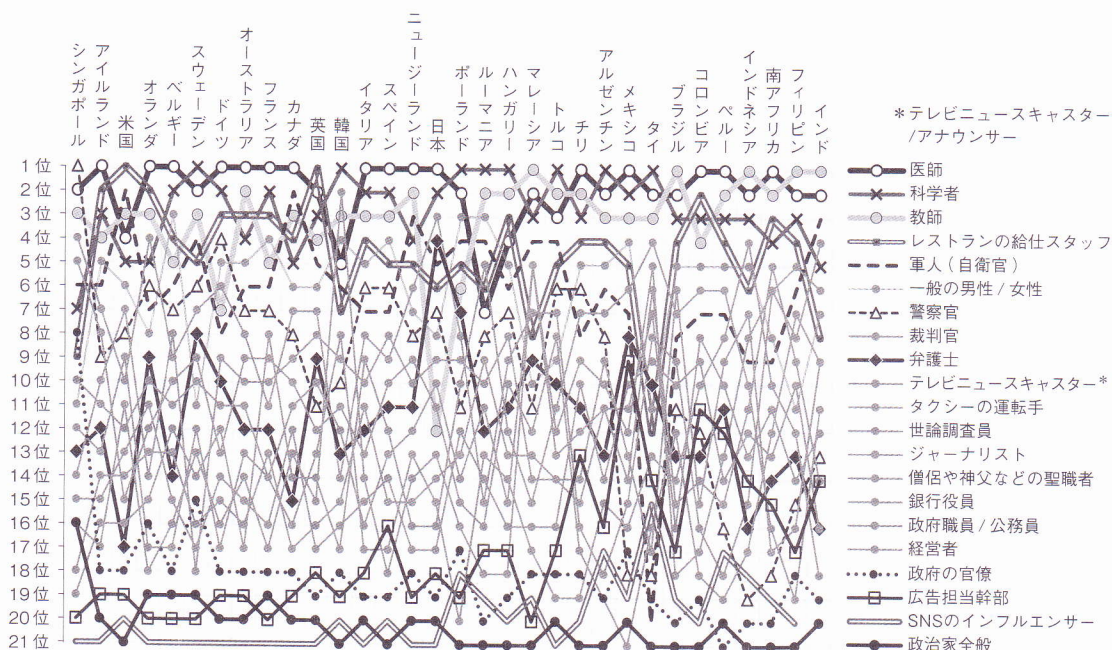


図1 職業信頼度の国際比較 (2024年)

注) 2024年5月24日から6月7日に32カ国にわたる75歳未満の23,530人にオンライン調査を実施。途上国のサンプルでは都市部の比較的高学歴、裕福な層へのバイアスがかかっている場合がある。国の並びは1人当たりPPPドル順 (IMF データ)。  
資料) イブンス「職業信頼度2024」(2024年10月)

表1 信頼度の高さ順の職業リスト、日本は図の順位からリスト順位を引いた相対順位

職業	英語	日本順位
医師	Doctors	+0
科学者	Scientists	+0
教師	Teachers	+9
レストランの給仕スタッフ	Serving staff at a restaurant	+2
軍人 (自衛官)	Members of the armed forces	+0
一般の男性/女性	Ordinary men/women	+2
警察官	The Police	+0
裁判官	Judges	-5
弁護士	Lawyers	-5
テレビニュースキャスター/アナウンサー	TV news anchor/Television News Readers	+0
タクシーの運転手	Taxi drivers	-2
世論調査員	Pollsters	+4
ジャーナリスト	Journalists	+4
僧侶や神父などの聖職者	Clergy/Priests	+1
銀行役員	Bankers	-2
政府職員/公務員	Government employees/Civil servants	-5
経営者	Business Leaders	-3
政府の閣僚	Cabinet officials/Government ministers	+1
広告担当幹部	Advertising executives	-1
SNSのインフルエンサー	Social media influencers	+1
政治家全般	Politicians generally	-1



に悪い)

- ④ 英米でトップ信頼度のレストラン給仕スタッフ
- ⑤ 警官の信頼度は汚職が多い途上国で低い
- ⑥ 法曹関係職種への信頼度は日本では高いが、世界ではそう高くない
- ⑦ 政治家の評判の悪さは世界共通
- ⑧ インフルエンサーなど広告関係者の評判は先進国で特に低い

信頼度の高い職業の方から見て行こう。

医師は 32 カ国中 16 カ国とちょうど半分の国で 1 位となっている。科学者は 8 カ国で 1 位となっているに過ぎないから、医師への信頼度の高さは科学者以上に世界共通だということが分かる。医師への信頼度の高さは先進国、途上国の差には関わりがないことも図から判る。

医師は信頼度がこのように世界的に高く、また収入も良いということで、能力のある青少年が目指す憧れの職業となっているのは当然だろう。

国際的に医師が信頼されていることから、医師が主導する国連の専門機関である世界保健機関 (WHO)、あるいは国際民間援助団体である NGO の中でも医師がつくる「国境なき医師団」に対する世界からの信頼度も高くなっている。

いくつかの国では医師への信頼度がそれほど高くない場合があり、こちらの方が何らかの説明が必要だろう。医師への信頼度が、米国は 4 位、韓国は 5 位、ルーマニアでは 7 位と高くない。米国は医療費の高さで嫌われているのかもしれない。ドラマや映画による憶測だが韓国では貴人の奴隷的な存在だったためかもしれない。ルーマニアは、『コレクティブ 国家の嘘』という同国の病院・医師の汚職・腐敗を暴くドキュメンタリー映画が 2019 年に公開されており、そうし

た状況が影響している可能性があるだろう。

2 番目に信頼されているのは科学者であるが、科学者を 1 位に挙げている国は中進国に多いようだ。

先進国ではスウェーデンで科学者が 1 位となっているのが目立っている。やはりノーベル賞の国だからだろう。

3 番目に信頼されているのは教師であるが、教師の場合は、先進国ではそれほど信頼度が高くなく、1 位となっているのはもっぱら途上国だという特色がある。日本では 12 位と異例に低い信頼度が目立っている (後段参照)。

警官の信頼度は国により極端に異なっている点が特徴である。警官への信頼度が 1 位であるのはシンガポールだけである。先進国ではこのほかドイツで警官への信頼度は高いが、アイルランドや英国ではかなり低い。日本も 7 位とそれほど高くない。一方、途上国ではメキシコ、タイで 18 位、インドネシアで 19 位など警官への信頼度が非常に低い国が多い。やはり、汚職警官の多さによるのだろう。

今回の調査で最大の意外事項は、レストランの給仕スタッフ (店主、ウエイター、ウエイトレス) が米国と英国で 1 位となっている点である。この 2 国では、客の個人情報を知りすぎて漏らさないという信頼を得ている職業なのだという文化的な特異性がうかがわれる。アイルランド、オランダ、コロンビアでも 2 位と高い。そうした職業倫理が特になくアジアでは、この職業への信頼度は高くない (シンガポール、韓国、日本、マレーシア、タイ、インド)。

軍人 (自衛官) は信頼度の高い方の職業であるが (そうでないと安心できない)、軍事クーデターがときどき起きるタイのように下から 2 番目と非常に評判が悪い国もある。日本は 5 位であり、米国、カナダの 2 位にはかなわないが

比較的評判が良い。

## 信頼度が低いのは政治家一般、 先進国では SNS のインフルエンサー や広告担当幹部の信頼度も低い

次に、信頼度の低い方の職業である。

政治家全般が最低であり（最低ランクの国が 15 カ国）、政治家が就くことの多い閣僚、政治家が指揮する公務員など政治がらみでは信頼度が世界的に低い点が目立っている。

日本では、政治とカネの問題、政治家の不始末などの頻出から、政治家への信頼は地に落ちた感があるが、これは、世界共通の現象だと理解しておく必要がある。

下から 3 番目以上の国はめずらしい。シンガポールは下から 6 番目、オランダ、ベルギー、スウェーデン、フランスでは下から 3 番目であるが、これらの国の政治家は相対的にはむしろ信頼度が高いとも言えよう。

信頼度の低い職業として目立つようになってるのが「SNS のインフルエンサー」である。世界 14 カ国で最低ランクとなっている。ネットで利益誘導的な情報提供が多いと見なされているのであろう。ただし、評判が低いのは先進国であり、途上国ではそれほど低くないのも特徴である。広告担当幹部も似たような傾向を見せている。

## 日本の特徴は世界と比べ教師への信頼度が低く、法曹関係・公務員が高い点

表 1 には、世界順位と日本順位の差（相対順位）を示したが、日本の教師の相対順位は +9 と世界平均より比べて大きく低くなっている。そのほかの職業では、世論調査員とジャーナリストが +4 と教師に次いで信頼度の相対順位が低くなっているが、教師ほどではない。

関連して、反対に、世界順位より高くなっている職業として目立っているのは、裁判官、弁護士、政府職員 / 公務員であり、世界順位より -5 となっている（すなわち 5 位高い）。日本では法曹関係者や公務員に対する信頼度は高いが、世界では、<sup>えこひいき</sup>依怙最良や汚職なども多く、その評判は日本よりもずっと低いのだということを理解しておく必要がある。

例えば、法曹関係のうち弁護士の順位を見ると日本は 3 位の裁判官に次ぐ 4 位と世界一高い信頼度である。

訴訟大国と呼ばれる米国では弁護士への信頼度が 17 位と主要国の中でも特に低くなっている。米国のテレビドラマでも弁護士が口八丁で悪の蔓延を手助けしている姿が繰り返しテーマとして取り上げられている。私的な感想であるが、米国の弁護士の生態を描いたドラマとして「ベター・コール・ソウル」（ボブ・オデンカーク主演、2015～22 年）は傑作だと思う。

韓国では、元検察官が大統領になるなど司法の影響力は日本より大きく、その分、裁判官にせよ、弁護士にせよ、それぞれ、14 位、13 位と日本の真逆といってよいほど信頼度が非常に低い点が目につく。

日本で司法職への信頼度が高いのは、裏を返せば、日本では生活面における司法の浸透レベルが低く、その結果、いわば馬脚があらわれていないためという皮肉な見方もできよう。